

安平町ゼロカーボンシティ推進協議会（第4回） 議事録

会議名	安平町ゼロカーボンシティ推進協議会（第4回）
日時	令和6年9月25日
出席者 (敬称略)	<p>【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 安平町 町長 及川 秀一郎</li> <li>• 安平町 副町長 田中 一省</li> <li>• 安平町 教育長 井内 聖</li> <li>• 安平町商工会 会長 小林 正道</li> <li>• 安平町誘致企業会 会長 島田 裕之</li> <li>• 安平地区連合自治会 会長 佐々木 弘</li> <li>• 早来地区自治会連合会 会長 山下 美樹</li> <li>• 遠浅地区自治会連絡協議会 会長 山田 強</li> <li>• 追分地区町内会連合会 会長 真保 立至</li> <li>• 且見 暁</li> <li>• 宮崎 晃行</li> </ul> <p>【アドバイザー】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 北海道大学大学院地球環境科学研究院 教授 山中 康裕</li> <li>• 北海道地方環境事務所地域脱炭素創生室 再エネ促進区域推進専門官 川村 華（代理・WEB参加）</li> <li>• 北海道銀行 安平エリア統括早来支店長 山内 淳</li> <li>• 北海道ガス株式会社経営企画部経営企画グループ 課長 宮澤 智裕</li> <li>• 北海道電力株式会社 道央南統括支社長 吉田 耕也</li> <li>• 北海道電力ネットワーク株式会社 道央南統括支社長 黒須 僚子</li> </ul> <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 安平町 税務住民課 参事 佐々木 智紀</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 安平町 税務住民課 課長補佐 畠山 津与志</li> <li>• 安平町 政策推進課 課長 渡邊 匡人</li> <li>• 安平町 税務住民課（ゼロカーボン推進員） 岸本 佳也 エイコーエナジオ株式会社 事業アドバイザー 高島 誠太郎</li> <li>• エイコーエナジオ株式会社 事業アドバイザー 中尾 敏夫</li> <li>• 株式会社 DG ネットワーク 事業アドバイザー 北野 史人</li> </ul>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 安平町ゼロカーボンシティ推進協議会説明資料（第4回）</li> <li>• &lt;別紙 1&gt; 安平町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）策定事業説明（第2回）</li> </ul>

## 1. 開会

安平町ゼロカーボンシティ推進協議会設置要綱第6条第1項の規定に基づき、及川町長が議長となった。

及川町長から挨拶が行われた。その中で、新たに委員やアドバイザーになる方が紹介された。更に、議会の一般質問にて本協議会についての質問があり、立ち上げの経過や組織構成、事業規模といった点について答弁したことが紹介された。

また設置要綱に第6条第2項の規定に基づいて本会が適正に開催されたことが説明された。

## 2. 委嘱状交付

及川町長から山下委員、井内委員、山田委員、黒須アドバイザーに対して委嘱状の交付が行われた。

また、新たに事務局員となった地域おこし協力隊の岸本ゼロカーボン推進員の紹介があった。

### 3. EV 普通充電器の採択について（報告）

事務局より、以前より補助申請を行なっていた EV 普通充電器に関する補助事業について、申請していた 9 箇所 26 基 34 口が全て採択された旨の説明が行われ、以下の補足・意見交換・質疑応答が行われた。

#### 【意見交換・質疑応答】

- エネチェンジの設備であり、あけぼの団地以外の 8 箇所の設備については誰でも利用可能としている。あけぼの団地の設備については入居者専用としている。（事務局）
- 事業総額はどの程度か？（委員）
  - 工事費についてはエネチェンジ(株)が負担するので、EV 普通充電器に関して町としての持ち出しはない。ただし、町民センターについては、EV 普通充電器の設置場所まで配線するための施設側の電気工事が必要であり、この部分については町で負担する予定である。（事務局）
- 導入される充電器の充電速度はどの程度か？（委員）
  - EV 側の仕様にもよるが、普通充電なので 50km 走行するための電気を充電するのに 2 時間程度かかる。EV を持っている人が、今回導入予定の充電器で空の状態から満充電するという使い方よりも、次の目的地への継ぎ足し充電をするような使い方を想定している。（事務局）
  - 町のあちこちに充電器を設置していくことが必要になると思われる。（委員）

### 4. ゼロカーボン推進に向けた直近の状況共有

事務局より、「安平町ゼロカーボンシティ推進協議会説明資料（第 4 回）」に基づいて説明が行われ、以下の補足・意見交換・質疑応答が行われた。

#### 【意見交換・質疑応答】

- 町内 4 地域の農地においてソーラーシェアリングの検討を進めているということだか、全体で何箇所の農地を対象として事業を計画しているのか？（委員）
  - 電力の需要場所となる公共施設のそばにある農地をまずは見て回っている状況である。先日宮崎委員の農地を見せていただいた。その他はまだ地権者と話をする前の状態で、事業の計画もこれから立てるところである。（事務局）
- 環境フォーラムはどのような案内をするのか？（委員）
  - 10月の広報「あびら」に別刷で告知を入れる予定であり、またホームページでも告知をする。地球温暖化をテーマとして開催を予定しており、早来学園で10月25日（金）18：30から開催する。昨年は休日にやったが今年は平日の夜に試しに開催してみる。（事務局）
  - 早来学園で開催するが、生徒が対象というわけではない。平日の夜の方が参加しやすいのではないかという意見が過去にあった。（議長）
- 環境教育の点については、「ゼロカーボン」や「マイクログリッド」と言う親しみのない用語を聞くと、それを調べるところからスタートしなくてはならず、難しそうに感じて一歩引いてしまう人もいる。しかし、実際に参加してみると、私たちにとって必要なことだとわかる。一般の人にもわかりやすく落とし込んで説明をしていただければ、幅広い年代で興味を持ってくれる人が増えると思う。（委員）
- ソーラーシェアリングについては、農家以外との連携も考えられる。例えばダイナックスがワイン事業を行っている。そういった事業と連携し、ゼロカーボンの取り組みで製造されたワインというようなことも可能かもしれない。もちろん先方と直接話をしているわけではないが、こういった形であらゆるところにアンテナを張りながら範囲を広げて検討を進めていく必要があるのではないか。（議長）
- 環境教育のところで言うと、総合学習の1つの単元をいただいて、11

回講義をする予定で、その内 3 回は対面で私も参加してお話をする。もう一つは子ども達に自由に発想してもらい、発想力をつけてもらおうと思っている。ただし、インターネットで調べると陰謀論など間違った情報も多く出てくるので、ファクトチェックをしっかりとっていくという形で進めていく。(アドバイザー)

- 安平町は 2050 年に電気を再エネ 100%にするだけではなくて、更に電化も進めていくという大胆な宣言をしており、普通はそこまで考えてやっているところはないので、何かブランディングに結びつけても良いかもしれない。有名なところでは今治市に風力発電の電気で製造している「風で織るタオル」というものがあるが、安平町の場合は例えば「太陽が育んだワイン」や「太陽が育てたチーズ」といったものが考えられる。エノテカが「サステナブルワイン」という売り方をしていて、そのワインを購入するとカリフォルニアのワイナリーとそこのコミュニティにお金が落ちるとして、「地球に優しいことをした」という満足感でブランディングをしている。私はこの取り組みには少し批判的だが、安平町としてもブランディングをしていくことで、農業者にとってもわかりやすいし、環境省や経済産業省に対しても説明がしやすいのではないかな。(アドバイザー)
- ソーラーシェアリングは農業にとっても発電にとっても非効率となる面が存在するが、先ほどのブランドに結びつけて逆に付加価値をつけていくことが必要と考えられる。(アドバイザー)
- 重点加速化事業についてはオンサイト PPA がメインということであれば、自営線が必要となり費用が大きくなるので、この負担についても検討を具体化していく必要があるだろう。(アドバイザー)
- マイクログリッドについては、これにフォーカスした補助事業もあると思うので、調べてみると良いだろう。(アドバイザー)
- 資料に「民間企業の PPA 事業計画の策定」とあるが、これは安平町が行うのか？(アドバイザー)

- 計画策定の支援を行うことを意図している。まずはヒアリングさせていただいて、ゼロカーボンに取り組む意向があっても取り組み方がわからない企業に対して PPA 等のアドバイスをすることを想定している。(事務局)
- PPA 事業を行っている事業者はいるが、そういった事業者が商売としてアプローチするよりも、町による今回のようなアプローチの方が、町内企業にとってスッと入りやすいので、良い取り組みだと思う。(アドバイザー)
- 環境教育については北海道電力としても取り組んでおり、エネゴンという広報車も用意しているので、ご活用いただければ幸いに思う。(アドバイザー)
- PPA 事業については補助金を活用することでコストメリットを実感しやすい状況となっており、北海道ガスの関係しているところでも、順番待ちのような状況が生じている。(アドバイザー)
- マイクログリッドについては、自営線が高額になったり、道路を挟んだ電力供給が制度的に難しかったりという話がある。目的がレジリエンスの確保であれば、マイクログリッドにこだわらずに蓄電池との組み合わせという方法も排除せずに検討いただくのも良いと思う。(アドバイザー)
- 重点加速化事業は年々厳しくなっている。モデル性や他地域への波及性が評価されているので、先ほどのブランディング等を通じて地域課題の解決に結びつくといった見せ方を検討いただけると良い。(アドバイザー)
- 町内には様々なタイプの農地があり、様々なタイプの農業が展開されている。畑での人の動きだけではなく、周辺の草刈りや機械の作業性なども考慮する必要があるため、ソーラーシェアリングを検討する際には、様々なバリエーションを考える必要がある。需要地との組み合わせもあると思うので、農業委員会と協議しながら進めていくのが良いと思う。

(委員)

- ▶ 畑だけではなくビニールハウスなどの施設があるところで、ペロブスカイトなどの曲げられる太陽光パネルを設置し、それでビニールハウスで使用するエネルギーを賄うことで、農作物に付加価値をつけるような工夫も考えられる。(議長)

## 5. 地方公共団体実行計画（区域施策編）の策定について

事務局より、「〈別紙 1〉安平町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）策定事業説明（第2回）」に基づいて説明が行われ、以下の補足・意見交換・質疑応答が行われた。

【意見交換・質疑応答】

- 家庭用アンケートは、賃貸と持ち家で分けて分析をした方が良い。また事業所用アンケートについては、事業所の規模が様々なので、そこを考慮した上で丁寧に分析をしていく必要がある。分析には協力したい。(アドバイザー)
- 児童・生徒用アンケートで、ゼロカーボンに取り組むことで生活が豊かになるという回答をした子ども達が多いというのは嬉しい。また、情報源に関して「テレビ」という回答が多かったが、高校生や大学生になるとテレビと回答する人が3割くらいしかいないので、小中学生はまだ家族と一緒にテレビを見ているというアンケート結果に微笑ましく思った。(アドバイザー)
- アンケートというのは教育で、アンケートを実施することで色々なことに気づいたり、新しい視点が得られたりする。なので、このアンケートを継続して実施していくことは、ゼロカーボンに向けた一つの良い方法として考えられるのではないか。(委員)
- メディアの関係で言うと、今の子ども達の家で新聞を取っている家は多分2割あるかどうか。テレビも都市部では見なくなっているが、今回テレビという回答が多いのは地方という特殊性があるのかもしれない

ない。(委員)

- 今回のアンケートの対象が5年生以上だが、低学年でも環境教育はできる。低学年の環境教育というのは、知識を与えるということではなく、外で遊び自然と触れ合うことで、豊かな体験を子ども達の記憶の中に残していくことである。ゼロカーボンというと知識的なところが中心になると思うが、教育の視点からすると体験的なところも考慮していただけると有り難い。(委員)

## 6. その他

その他、全体を通じて以下の意見交換・質疑応答が行われた。

- 家庭ごみの低減については、安平・厚真の2町の取り組みとしてアプリの導入を行うこととなっている。また、苫小牧で廃プラの燃料化事業を行っているサニックスに対し、プラスチックごみを有価物として取引して町の財源に充てていくような検討も行なっている。(事務局)
- 事業所に対してアンケートを実施しているが、取り組みを進めていくためには一社一社ヒアリングをして、企業に必要な情報を提供するなどしていく必要があるのではないか。可能であれば地域おこし協力隊とも一緒に取り組めれば、より施策を展開していける。(事務局)
- 安平町も外国人労働者が増えてきており、来年度のJICAの委託事業で外国人労働者が地域の中で住み続けていける社会づくりをやっていく。(事務局)
- 例えば、町内企業のアイリスオーヤマは、家電のみならず事業所の再エネ関係の空間プロデュース等もできる。2030年のゴールに向けてあと6年しかない中で、来年度は重要な年になってくると思うので、こういった町内企業とも連携しながら、動いていく必要がある。(事務局)
- 遠浅地区に171MWの太陽光発電があり、過去においては草刈りを羊にやってもらって、その羊の肉を「ソーラーラム」として売り出すことを検討したことがある。農業者とも連携しながら、こういう新しい商品開



発に繋げていくことをして、ゼロカーボンの取り組みを加速させていきたい。(事務局)

#### 7. 次回協議会について

事務局より、12月24日(火)から次回の協議会を開催予定であることについて説明があった。

#### 8. 閉会